

パキスタンの教育事情と理科教育の実態

前在パキスタン日本国大使館附属イスラマバード日本人学校 教諭
岩手県一関市立花泉中学校 教諭 森 川 正 徳

キーワード：現地教育事情、教育格差、日本との教育比較、パキスタンの理科教育

1. はじめに

パキスタンと聞いて喜んで渡航した教員はそう多くはいない。でも、帰任するときにはどの教員、館員、そしてイスラマバード日本人学校に入学した児童生徒とその保護者はみな、帰任を惜しみながら自分たちの故郷や次の任務地に渡っているのが事実である。今回は、そんな魅力的なイスラマバード日本人学校の様子もお伝えしたいが、ホームページから感じてもらうとして、それとは懸け離れたパキスタンの厳しい教育事情と格差のある教育の中の1つ、理科教育にもある見えない実態を伝えていきたい。

2. パキスタンの教育機関と実態

(1) 教育

パキスタンの教育機関は、大きく分けて2種類ある。

フォーマル教育……主に校舎などの施設があり、教員が複数配置されている学校

① パブリック教育（公立学校）

多くの児童生徒が通う。授業料はほとんど無料。午前と午後の2部入れ替え制で授業を行っている所もある。主にウルドゥ語で授業を行い、英語教育もある。

② プライベート教育（私立学校）

英語で授業を行い、かなりレベルの高い教育を目指す。授業料は学校により違い、かなり高いところもある。1クラス当たりの児童生徒数も公立に比べると少ない。

ノンフォーマル教育……村にある民家などを利用して、授業をする学校

① NGO等の民間団体が設立している学校

② 民間を利用している学校

日本でいう寺子屋教室に近い。学歴を持った女性（1名）が、異年齢の児童を授業する。授業料は無料。主に貧しい家庭の子どもたちが通うが、家から近いという理由で入学する子もいる。机はなく、青空教室も少なくない。

③ マドラサ（宗教学院）

クルアーン暗誦やイスラムの諸学を学ぶ。寄宿舎を持つ。

(2) 年齢と教育課程

パキスタンでは、州ごと（パンジャブ・シンド・バロチスタン・カイバルパクトゥンクワ）に、初等中等教育の内容や教育課程が決められている。いわゆる日本でいう都道府県の教育委員会のような存在が各州の教育庁である。

Age	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
Pakistan	小1	小2	小3	小4	中等前期			中等後期			高校		
Japan	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	

就学年齢は5歳以上で、公立校では男女別学が普通である。また、5年間の初等教育と5年間の中等教育が行われている。中等教育は前期（6～8学年）と後期（9～10学年）に分かれており、前期が日本の小学校高学年段階、後期が日本の中学校段階に相当する。第10学年終了時に大学入学資格試験が行われ、合格者は予科カレッジに進学する。予科カレッジの修業年限は2年間で予科終了試験をへて学士課程に進むことができる。

1973年に発出されたパキスタン教育憲章では、「教育はあらゆる国民の基本的権利であり、国は非識字の問題を一掃し、国民の無料の義務中等教育を提供することを最低限の期間内に実施する」としている。しかし、それから約40年後の2012年、パキスタンの識字率は58%である。世界的な非識字者の割合を見ると、インド、中国に続いて、パキスタンはバングラデシュと同様に3番目に非識字人口が多い国である。つまり、国民の半分近く

が、情報を正しく理解して社会生活を行い、社会活動に参加する機会を持っていない。特に男女の格差は深刻である。

(3) 識字率 (15才以上)

(2015年現在：ユネスコからのデータによる)

州 識字率	パキスタン全体		パンジャブ		シンド		KPK		バローチスタン	
	59.5%		62.5%		59.5%		52.5%		42.5%	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
性別 識字率	71%	48%	71%	54%	72%	47%	70%	35%	62%	23%

識字率も含め、MDGs (ミレニアム開発目標) は、2015年までに達成すべき目標として8つのゴールと21のターゲット項目を掲げていた。改善するために、2001年にスタートしたMDGs。

ミレニアム開発目標 (MDGs: Millennium Development Goals) とは、2000年9月にニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットにて採択された国連ミレニアム宣言と、1990年代に開催された主要な国際会議やサミットで採択された国際開発目標を統合し、1つの共通の枠組みとしてまとめられたものである。193の全国連加盟国と23の国際機関が、2015年までにこれらの目標を達成することに合意している。この目標は持続可能な開発目標に継承された。

開発途上国で1日1ドル25セント未満という極度の貧困に暮らす人々の割合は、1990年は人口の47%だったが、今年までに14%にまで減り、初等教育の就学率も2000年に83%だったものが、91%に改善されている。しかしながら、5歳未満の子どもや妊産婦の死亡率の削減については、改善は見られたものの目標の水準に遠く及ばず、女性の地位についても就職率や政治参加で男性との間に未だ大きな格差が残っている。パキスタンの識字率は、中央集権ではないシステムで、各州に任せられている構造により、一部地域 (特にバローチスタン) では未だに古くからの習慣で女子に学習をさせない風習が根強く残っていることが、識字率改善を難航させている要因となっていることがよく分かる。

パキスタン高等教育省 JICA 専門家 加藤大二郎様のお話より

3. 現地校訪問と聞き取り調査

(1) フォーマル教育から公立校2校の訪問と調査

☆セクター F8-4 の男子学校 (小学校から大学が併設)

☆児童数のみで約1000人ほど

☆授業料は、小学部は無料 グレードが上がると数百ルピー徴収あり

☆教員は、多くが男性

☆授業は、昼頃までだが土曜日までである。



化学実験室とガスバーナー
ガスバーナーはかなり古く、ガスが不足する冬は点きが悪い。元栓しかないガスバーナー

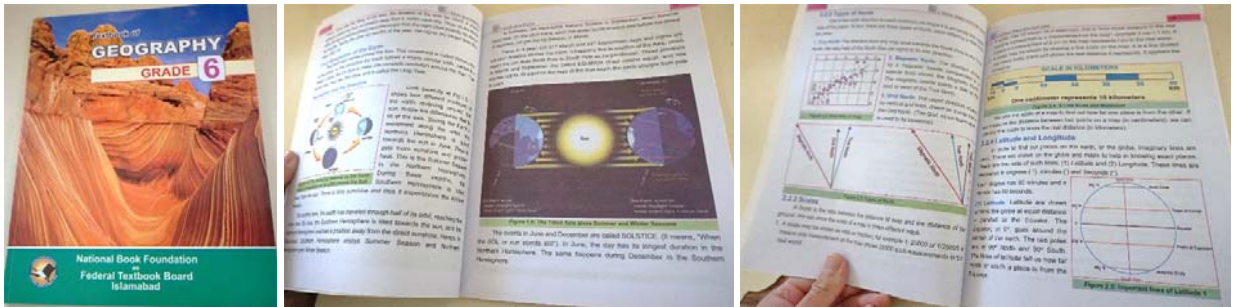


各薬品
様々な薬品が教室の両壁側に薬品瓶に入れて並べてある。安全管理については疑問がある。



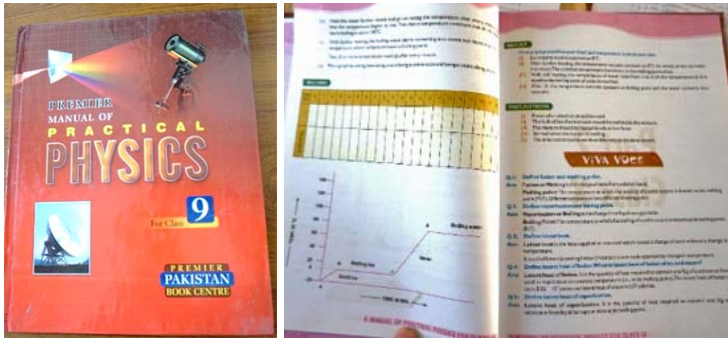
生物実験室と教材

教室には、長机の中心に蛍光灯が設置された場所があり、この光源を使って、顕微鏡観察ができる。ホルマリン漬けの教材は児童たちにとってどう映っているか疑問である。



教科書

いくつかの学年の教科書を見せて頂き、系統性を確認した。低学年からかなり高度な学習をしていた。空間図形の認識や原子・分子説の理解など、どこまで理解しているのか疑問を感じた。これらの教科書は、パキスタンの書店で購入できる。



- ☆セクター F8-1 の女子学校（小学校から高校までが併設）
- ☆児童数のみで約 600 人ほど
- ☆授業料は、小学部は無料 グレードが上がると数百ルピー徴収あり
- ☆教員は、多くが女性
- ☆授業は、昼頃までだが土曜日までである。



化学実験室と教材

とても狭く驚いた。半分のが、パソコン室などに行って交互に学習をするという。薬品も教室内に並べられていた。



物理実験室と教材

広いが教材が揃っていない。また、使っている形跡がなくほこりがかぶっている。町の模型を作っているのは気になる。



生物実験室と教材・パソコン室

こちらも広いが教材が揃っていない。パソコンは、ほとんどがウィンドウズ98。どのように使っているのだろうか？



外の様子

みんなで座って話して過ごす様子。鐘が鳴っても動く様子は無い。

SILABANG MODEL COLLEGE FOR GIRLS F-81, SILABANG		
WINTER/PELA TIMOR (SPRINGING BRIT)		
FOR BOYS/10-12 (10-12, 12-12, 12-12)		
SUNDAY - 2008/08/24		
PERIOD	TIME	DURATION OF PERIOD
Morning Assembly	08:10 - 08:15	05 Minutes
1 st Period	08:15 - 08:55	40 Minutes
2 nd Period	08:55 - 09:35	40 Minutes
3 rd Period	09:35 - 10:15	40 Minutes
4 th Period	10:15 - 10:55	40 Minutes
BREAK 10:55 - 11:20 20 MINUTES		
5 th Period	11:20 - 11:55	35 Minutes
6 th Period	11:55 - 12:30	35 Minutes
7 th Period	12:30 - 01:10	40 Minutes
PERIOD	TIME	DURATION OF PERIOD
Morning Assembly	08:10 - 08:15	05 Minutes
1 st Period	08:15 - 08:55	40 Minutes
2 nd Period	08:55 - 09:35	40 Minutes
3 rd Period	09:35 - 10:15	40 Minutes
4 th Period	10:15 - 10:55	40 Minutes
BREAK 10:55 - 11:20 20 MINUTES		
5 th Period	11:20 - 11:55	35 Minutes
6 th Period	11:55 - 12:30	35 Minutes
7 th Period	12:30 - 01:10	40 Minutes

日課表

月曜から土曜まで1:10まで。金曜日はお祈りのため12:15まで。1コマ35分~40分を1日7コマ行う。金曜日は1コマ30分で1日7コマ行う。授業の終わりが次の授業の始まりでもあり、時間が守られておらず、時間を守る様子はこの時点から植えていない。食べたお菓子のゴミもその辺に捨てる様子が見られた。

(2) フォーマル教育から私立校2校の訪問と調査

①ヘッドスタート クリキャンパス

- ・ 幼児・児童・生徒・学生で約280人 職員約40人の学校
- ・ イギリス系のシステムで教育課程を編成
- ・ 幼稚園~18才の年齢までの教室を持つ
- ・ 幼稚園 (P.G) ~ G6までは、IB (インターナショナル・バカロレア) システム、G6 ~ 18才までのA2レベルまでは、IGCSE (International General Certificate of Secondary Education) システムを採用して、大学へ送り出している。
- ・ 日本のように学習到達度調査は、イギリスのものを採用している。
- ・ 試験で数単位程度なら補習でフォローするが、多く単位を落としたら進級できない。
- ・ 教員の研修会は、3カ月に1回ある。
- ・ 教員の採用は初めボランティアで授業。その後、様々なチェックを校長中心に行い、良ければ採用。
- ・ 納付料は、登記料75000Rs、本など必要品20000~32000Rs/年、授業料300000~360000Rs/年で、P.G (プレグループ) ~ Aレベルまで、本など必要品、授業料が異なる。

◎理科に関しては、4才からカリキュラムに導入。体の部分を英語やウルドゥ語を使って触りながら歌いながら覚える感覚で、理科教育をスタート。

◎物理室、化学・生物学室がある。G6~18歳までの子どもたちが使用。

◎児童の質は、日本に比べ……



化学・生物教室、非常口・危険時シャワー場所あり
一つの机で4人まで活動可。ガスバーナ4つあり



物理室はシンプルな状況。すべて収納済み
一つの机で6人程度が活動できる

※その他 家庭科室も見せてもらったが、ショールームみたいで驚きの設備。コンピューター室も驚きの設備を備えている。



ショールームのような家庭科室



パソコン室

☆IGCSEは、イギリスの義務教育終了資格で14歳～16歳のテスト

☆IBは、本部がジュネーブにある国際的な総合的教育プログラム。国際的に通用する大学入学資格を与え、大学進学へのルートを確認することを目的としている。平成27年10月1日現在で、世界140以上の国・地域、4344校（日本国内35校）で実施。茉莉花が行ったISAKもIB認定校。ヨーロッパ、カナダ、オーストラリアの大学進学では有効だが、アメリカでは互換性があるようである。アメリカでは、AP（The Advanced Placement）という高校時代に取れる大学の単位の取得に励み、大学入学後に単位に出来ることがメジャーのようである。

IBプログラム

① プライマリー・イヤーズ・プログラム（PYP）【1,323校（国内：19校）】

3歳～12歳を対象として、精神と身体の両方を発達させることを重視したプログラム。どのような言語でも提供可能。1997年設置。

② ミドル・イヤーズ・プログラム（MYP）【1,219校（国内：9校）】

11歳～16歳を対象として、青少年に、これまでの学習と社会のつながりを学ばせるプログラム。どのような言語でも提供可能。1994年設置。

③ ディプロマ・プログラム（DP）【2,918校（国内：26校）】

16歳～19歳を対象としたプログラムであり、所定のカリキュラムを2年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格（国際バカロレア資格）が取得可能。原則として、英語、フランス語又はスペイン語で実施。1969年設置。

④ キャリア関連プログラム（CP）【77校（国内：-校）】

16～19歳を対象として生涯のキャリア形成に役立つスキルの習得を重視した、キャリア教育・職業教育に関連したプログラム。一部科目は英語、フランス語又はスペイン語で実施。2012年設置。

②グラマンルスクール

世界で100番に入る総合学習成績を納めることができた学校として、表彰されている。IGCSEを採用して、パキスタン国内（採用校は400校くらいある）ではもちろんトップクラスの成績で、世界で100番に入っていることで公式に賞を受けた学校である。イギリスのケンブリッジ大学からの共通試験で世界で1位になった生徒もここ数年で出している。他にも優秀な成績を取めている生徒がかなり多いのは、掲示板からも明らかである。



- ・各学年2クラス程度で、イギリス系のシステムで教育課程を編成
 - ・幼児（3才）から18才の年齢までの教室を持つ。入学時に簡単なテストを行い、必要に応じて補修やグレードを下げて入学をさせる。
 - ・IGCSEシステムを採用して、大学へ送り出している。大学は、ほとんどが海外を受験とのこと。
 - ・日本のような学習到達度調査は、イギリスのものを採用して実施している。
 - ・教員の研修会も年に何回かある。
 - ・納付料は、授業料12000Rs /月～18000Rs /月で、P.G（ブレーグループ）～0レベルまで、授業料が異なる。
 - ・児童生徒の親は、大使館関係が多く、大使や公使レベルではなく、館員の親の子が多い。中流階級の子たちにも無理なく学べる学習環境（授業料面で）を考え、もうけ主義ではなく徴収しているとのこと。イスラマの風土も忘れないよう、随所にパキスタンスタイルを残しながら教育に当たるスタイル。
 - ・夜に訪問した文化祭に関して……全ては放課後活動で残って練習に励み、あそこまでの出来に仕上げている。詳細は動画を学校のフォルダーに入れている。
 - ・校長は、話の最中にも、常に窓ガラス越しに子どもたちを見て、生徒指導に当たるスタンスを忘れないという。ベークさんの話では、自分の子の入学に当たる初面接中に窓越しに泣いている児童がいて、面接試験監督の校長がいなくなり、児童の対応に当たったとか。また、教室に入室できない低学年の外国籍の児童に寄り添い、校長から話しかけ、一緒にブランコで半日を過ごして、教室に入ることができるようにし向けた様子を見て感動したとか。
- ◎理科に関しては、G4からカリキュラムに入れている。具体的には、理科の学習といえる分野の学習（体のさまざまななたらき）を行っている。動画をたくさん撮り、記録としている。



シャリマールが旅に使ったという列車が庭に展示



美術教員が作ったアート 他にも壁のペンキ塗りも彼が行う



幼稚部の保健室 隣は事務室で様子が聞ける



読み聞かせの部屋 自由に使えて言語習得に活かす



3 オプナーサリー 英語の歌



4 オナーサリー 英語の勉強



5 オ幼稚園 縦計算とかけ算

どちらの学校も児童や生徒の積極性がすごく、私が教室に入室すると全員起立してあいさつをしたり、教員の質問に対して意欲的に発表する姿勢は、造ったものでは無いようで感心した。

また、日本の同じ年の子どもと比較したときに、数学力・理科に関する学習内容、何よりも第2母国語（英語）の定着状況が、かなり違うと感じ、質の高い指導に圧倒された。外国人がパキスタンの私立校に入学させなくなる意味を肌で感じる一時だった。独自に頑張っている日本も凄いが……将来は……と、ふと、先に発達したベータと後から普及したVHSのビデオテープの流行と廃れが頭をよぎった。世界の教育の方向を見た気がした。

3. まとめ

近年は、最低月賃金を10000Rs（日本円で約10000円／月）と国からアナウンスされ、年収は120000Rs（日本円で120000円／年）は常勤で最低得られるとされているパキスタン。ただ、財政難で常勤として働いている人々は多くない。街には、仕事がほしくて声をかけてもらうのを待っている人があふれている。また、信号で車を止めると物乞いをしてくる人は絶えない。

そんな中、一人の子どもに教育を受けさせる難しさ、また、私立校（調査からは10000～30000Rs／月）に通わせる難しさを感じつつ、貧富の差も感じた。

公立学校と私立学校での施設の違いは日本と似ていた。公立学校は設立時のままで老朽化が激しく、私立学校はお金をかけている分学習環境はとても良く感じた。こちらの教育内容の質は、地方に行くほど質が悪くなって

いる。なぜそういうことが起こるのか、日本では考えられない行政の姿勢と古くからの体質が物語っているといえる。さらには、地域により女性には教育を進めることを未だに好まない地域があることから、この状況が改善されない以上、教育の機会均等は無いように感じる。私立校など独自の取り組みをしている学校へ高い入学金を払える首都圏の富裕層の教育環境だけではなく、将来のパキスタンのために公教育から質を高める条件整備をより強く行ってほしい。